

ふるさとネット役員 新年の挨拶

# 新しい年に 未来を語る

「三宅島避難解除丸2年帰島条件改善！  
非帰島島民支援板橋の集い」

～チャリティー・ショー～開催

日時 1月28日(日) 午後2時～4時  
開場 午後1時30分  
場所 板橋区立仲宿いこいの家  
住所 板橋区仲宿3-1  
電話 03(3962)6323

## プログラム

第1部 非帰島島民の訴え

第2部 ショー

出演 鶴吉さん(舞踊家) 京町さん(女優)  
世話人による踊り「板橋音頭」も  
入場無料、皆さん参加してください！  
お問い合わせは事務局まで

新年あけましておめで  
とございます。  
昨年は、皆さまに支え



「現状と課題の発信 今年も」

会長 佐藤就之

# 三宅島新報

発行所：三宅島ふるさと  
再生ネットワーク  
〒100-1101  
東京都三宅島三宅村神着320-2  
Tel. 090-4922-0798  
発行人：会長 佐藤就之

新年あけましておめで  
とございます。  
11月の懇親会では、み



「訪問の際にお会いしましょう」

副会長 酒井一豊

皆さんの元気な姿を見る  
ことができ、安心しまし  
た。ただ、今回は非帰島  
島民の参加が少なかつた  
ので、次回はもっと多く  
の方に出席していただき  
たいと思っております。  
私は、三宅島で様々

療、温泉などの公共施設  
も3分の1に縮小されて  
しまい、空港も再開され  
ていません。まだまだ復  
旧の途上にあります。  
本年も全国に被災地三  
宅島の現状と課題を発信  
し、皆さまのあたにかい  
ご支援をいただきながら  
復興・再生三宅島のため  
に頑張ります。よろしく  
お願いいたします。

事務局長 大坊千代子

「会長とともに精一杯」



新年あけ  
ましておめ  
でござい  
ます。  
ふるさと  
ネットの結  
成からも

## 事務局便り

○ご寄付のお願い！  
多数の方にご寄付を頂  
きありがとうございます。  
これからも宜しくお  
願いいたします。

郵便振替口座  
口座番号：00120- 3-545036  
口座名称：三宅島ふるさと  
再生ネットワーク

事務局：あすなる保育園内  
電話・FAX 03(3963)5697  
担当 大坊・伊藤

な方のお世話になりました。  
その恩返しに気持ち  
を込めて、昨年から非帰  
島島民の方を訪問してい  
ます。みなさんの明るい  
笑顔に会うと、逆に私が  
元気づけられます。これ  
からも多くの方にお会  
いしたいので、よろしく  
願います。  
お互い、体に気をつけ  
て、頑張ります。

すぐ2年がたちますが、  
最近では、ふるさとネッ  
トの名前や活動をご存知  
の方が増え、皆さまが応  
援してくださっているこ  
とをとてうれしく思っ  
ています。  
皆さまからのご寄付や  
励ましのお手紙等をいた  
だくたびに、私がパワー  
をもらっています。島民  
の方々の優しいお心遣い  
や、協力者の方々のお力  
添えに本当に感謝してお  
ります。本年も会長と  
も、事務局一同精一杯  
頑張っていきたいと思  
います。どうぞよろ  
しくお願い申し  
上げます。

## 第2回懇親会 45人が参加

# 再会喜び 楽しい時間



楽しい雰囲気の中で行われた懇親会

### 非帰島民は12人

この日の会場は、足腰の弱い高齢者の方々への配慮から、座敷ではなく、椅子のあるレストラン桜花苑が選ばれた。参加者は非帰島民の方12人、ふるさと再生ネットワークのメンバー、およびそ

昨年11月11日、巣鴨で第2回三宅島在京者・支援者懇親会が開かれ、あいにくの雨天の中45人が参加。非帰島民の方は、仲間との再会を喜んでいたが、一方で、支援が打ち切られることやマスコミの報道が少なくなることへの不安の声も聞かれた。

の協力者など33人の計45人だった。

第1部は、ふるさとネット会長である佐藤就之さんの挨拶から始まった。その後、大妻女子大学人間関係学部教授の干川剛史先生による、非帰島民の現在の生活状況を調査するために行われ



協力者が踊りを披露

### 支援者の女優 京町さん

## 「泣きたい時には泣いていいよ」



三宅の非帰島民の方を励まそうと、11月11日の懇親会に参加した女優の京町さん。このような

支援をしようと考えたのは、自宅が阪神・淡路大震災で大きな被害を受けたのがきっかけだ。懇親会では、「皆さんが帰ったとき、後悔しないような島にしていきたいと思います。何もかも自分の中に溜め込まないでください、この現状を自分た

ちでみんなに伝えていきましよう」と挨拶した。このほか、素晴らしい歌声で参加者を力づけた。終了後に京町さんは、「参加した方の本当の気持ちを聞くことができてよかったです。非帰島のみなさんには、『泣きたいときには泣いていいんです。みんな頑張ったんだから。帰るときには私も連れて行って』と伝えたい」と話した。

たアンケートの中間報告(3面に関連記事)。そして、大坊千代子事務局長による活動・会計報告、訪問活動の状況と訪問員の紹介などが行われた。

### 歌に涙する姿も

ふるさとネット副会長で、非帰島民の一人でもある酒井一豊さんの挨拶と乾杯から始まった第2部では、協力者が漫才やゲーム、踊りなどを披露して、会場の雰囲気を盛り上げた。

その後、活動に賛同する女優の京町さんが「ふるさとへかえろう」、「しあわせはこえるように」の2曲を歌った。心のこもった歌声に、一緒に歌詞をくちさんでいた非帰島民の方の中には、目頭を押さえる人

もいた。全員でダ・カーポの「必ず帰るよ」を合唱したのちには、この日参加した非帰島民の方から、東京都などの援助が打ち切られてしまうことに対する不安や、マスメディアにもっと三宅島の実態を伝えてほしいなどという意見も出された。非帰島民の大内一宏さん(65)は、「とにかく素晴らしい会でした。私は都営住宅に一人で生活しているので、このような会があることがとても励みになります」と話していた。

## 非帰島民へのアンケート

## 明らかにになった厳しい現状

大妻女子大学人間関係学部 千川剛史

帰島できない島民の実情を広く知ってもらうこととその状況を改善する目的で、三宅島ふるさと再生ネットワークでは、非帰島民を対象にアンケートを実施しました。その結果についてお知らせします。なお、アンケート結果の詳細は、「ふるやみネット」のホームページ([http://thoshikawa.com/miyake\\_furusato.net/top.htm](http://thoshikawa.com/miyake_furusato.net/top.htm))をご覧ください。

## 苦しくなったが6割

2006年9月上旬から10月下旬にかけて、東京都に居住する非帰島民を中心とした160世帯にアンケート調査票を郵送で配布し、50世帯から回答が得られ、集計を行いました。その結果によると、回答者のうち、7割が6代以上で、3分の2が無職です。また、



調査を担当した千川先生

東京都・神奈川県・埼玉  
県下26の市区町村にばらばらに居住しています。そして、高齢者一人暮らしの世帯が3割弱。高齢者夫婦2人暮らし世帯が2割弱です。働き盛り世代(30～50代)の夫婦別居世帯が約1割です。現在の暮らし向きについて尋ねたところ、年金で暮らしている世帯が6割弱。給与所得のある世帯が2割弱。生活保護世帯が3世帯あります。また、預貯金が、全く無くなつた一世帯が約7分の1。「減った」世帯が5割強。増えた世帯はありません。暮らし向きについては、「苦しくなった」世帯が6割強。「ほとんど変わらない」世帯が3割。「よくなった」世帯はありません。今後の生活の見通しについては、「今より苦しくなる」と答えている世帯が半数以上。「楽になる」という答えはありません。

## 修繕費用 4割が

現在困っていることは、「島の自宅の修繕費」が4割強。「近くに知り合いがなく、さびしい」「本人・家族の健康問題」が3割強。「家賃の支払い」が3割弱。中高生の

いる世帯で「借金の返済と子どもの教育費の二重負担で生活が苦しい」等があります。帰島については、「いずれは帰島したい」が6割強。「帰島しない」が2割強。帰島できない理由は、「健康問題」「島内の医療・福祉の貧弱さ」「火山ガス」「子どもの教育の問題」があります。

## 航空路再開 5割が要望

行政への主な要望としては、「航空路の再開」が5割強。「三宅島への渡航費用の補助」が4割あります。持病をお持ちのお年寄りは、飛行機で三宅島から都内に治療に通うことができれば帰島したいという思いから「航空路の再開」を行政に望み、また、住民票を三宅島外の現住所に移した人たちは、実際に三宅島へ自宅の補修などで渡航していますが、その際に運賃の島民割引を受けられず出費がかさむため、「渡航費用の補助」を行政に望んでいると思われる。

## アカコッコ通信コーナー

## 三宅復興・復旧への公的支出は

今回は、三宅島の噴火災害に対して、平成17年8月1日現在で、国や東京都・三宅村が復旧・復興事業にどれだけの費用を支出したかについて「内閣府防災情報」ホームページ(<http://www.bousai.go.jp/kinkyu/050928miyake/050928miyake.pdf>)に掲載されている資料をもとに、概要をお知らせいたします。

まず、安全確保対策として、避難施設(クリーンハウス)の整備に約15億円、総合的な火山観測に約6億5千万円、高感受性者世帯への小型脱

硫装置設置に約2億円。次に、基盤整備対策として、砂防ダム等の整備に約323億円、治山ダムの整備に約79億円、漁港の整備等に約43億5千万円、村営住宅の復旧・新設に約34億4千万円、都道復旧事業に約34億円、水道施設の災害復旧等に約5億6千万円、小・中・高校施設の復旧事業に約5億4千万円。

## 「淡路大震災そして三宅島より～メッセージ」開催

日時 1月21日(日)  
午後2時、午後6時  
(2回実施)

場所 東部フレンドホール  
江戸川区瑞江 2-5-7  
03(5666)1221

## アクセス

都営新宿線瑞江駅下車  
徒歩2分

・入場無料、ふるってご参加  
ください

## 高濃度地区の住民 果たせぬ帰島

## 村営住宅の抽選に3度外れて

全島避難指示が解除されて、2年近くが過ぎた。帰島した人も多いが、立ち入りが規制されている高濃度地区の家には、住むことができない状況が続いている。島にはそのような人のための村営住宅もあるが、全員が入居できる状況ではなく、「帰りたい」という思いを果たせぬまま生活をしている人もいる。

「三宅島で生活がしたいけれど、住むところがない」と話すのは、坪田高濃度地区に家がある匿名希望のAさん(76)。島にいつでも帰ることができるように、今も荷造りはしてあるという。立

ち入りが規制されている高濃度地区に家がある人のために、島には村営住宅がある。しかし、十分な空きがなく、Aさんはそこに住むための抽選に3度外れ、「もう諦めている」と話す。

現在、大田区の都営住宅で生活をしているAさんは、気管支炎や高血圧、妻のBさんは胃潰瘍などを患っているために入退院を繰り返している。病気のことを考えると、こ



高濃度地区の集落(三池地区)

## 武蔵村山三宅島会からご寄付

避難中の武蔵村山三宅島会事務局から、ご寄付を5万円、12月17日にいただきました。謹んでご報告いたします。

## 【ご寄付者名】

(10月6日から12月4日・数字は寄付の回数)

櫻田晃一様、高橋栄一様⑤、須藤幹雄様③、前田玄様②、遠藤正子様、倉持房枝様②、稲葉稔様③、小池上照子様③、築山英司様、寺澤夏雄様②、佐藤宗ノ子様③、金澤利夫様②、横井和之様③、山本裕様、榎田禎子様、緑川圭子様、宮澤雅美様、松尾駿一様、吉野文雄様③、大石真様④、青谷知己様、平石登和様、中村徹様、③榎本京子様、高松梅郎様③、光安千久子様④、DT P A様、浅井昇様

のものが島にある状況だという。「観光での復興を進めていくことも大切だが、もともと住んでいた我々のことを一番に考えてほしい。高濃度地区に立ち入り規制をかけるのは当たり前なのかもしれない

が、そこに住む人が、帰りたいくても住む場所がないのは差別ではないかとAさんは話す。未だにガスは止まな

## 連載 三宅島噴火の昭和史③

## 58年 阿古の320戸が溶岩の下に

## 水蒸気爆発で新滞池が消失

## 海岸線には新鼻新山が

昭和に入ってから4回目の噴火は、58年10月3日に起こった。これは、前回、昭和37年の噴火から21年目のことである。

阿古中腹二男山の噴火で大量の溶岩が流出し、阿古部落320戸を埋め尽くしたほか、栗辺部落十数戸も溶岩に埋まった。部落はその大半が火の海になり、住民はその光景を悲痛な思いで見

は、現在の場所に再建されたが、建て直した家のローンを未だに払っている人もいる。また、古くからあった新滞池は水蒸気爆発を起こし、水がなくなつて乾田化してしまつた。さらに、栗辺の浜には押し寄せた溶岩で大きな砂浜ができたほか、新鼻海岸で海中噴火が起きた結果、新鼻新山がつくられた。

## 編集後記

三宅島新報はこの号をもって1周年。何とか発行を続けて来ることができました。取材に当たってくださった皆様に、心より感謝しています。噴火から長い時間が過ぎ、世間の注目度が低くなつていますが、まだ解決しなければならぬ問題は多くあります。私たちは紙面づくりを通して、島民の方々に応援し続けます。このような活動が心の支えになれば幸いです。(DT P A一同)